

### 「3 いえにいるときに大地震がおこったら」

- 学習のねらい：1. 自宅で、どのような危険が起こるかを知る。  
2. 状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。  
3. 避難場所や避難時に注意すべきことを知る。

(指導上のポイント)

- ◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
- ◆各自の家で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
- ◆2次災害として、津波、火災・爆発、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、液状化などが考えられるが、地域の実情に応じて指導する。
- ◆家で身を守る方法について指導する。

例) 机の下に隠れる。

テレビから離れる。

- ◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合は、あらかじめ危険箇所を調べておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

#### 《重要》

火事は津波とともに代表的な二次災害であることから、必ず注意喚起を行う。

また、ハンカチのほかにタオルや服を使ってもよいことを指導する。

### 3 いえにいるときに 大地震がおこったら

#### (1) いえの中で きげんなこと

いえにいるときに地震がおこったら、どんな きげんな ことが おこるでしょうか？  
下の えをみて かんがえて みましょう。



照明器具の落下、割れた窓ガラスの破片の飛散、壁の部材の剥離、収納物の散乱、冷蔵庫やタンスの転倒、調理器具からの出火、扉の開閉不可など

(上記絵以外の家での危険)

階段からの転落、家具の転倒などが考えられる。

また、家の外では、自宅のブロック塀の崩壊・転倒など

#### 【火事から ひなんするときは】

- 火事のはじめは、ゆうどくなガスがはっせいするので、けむりの中を ひなんするときは、ハンカチなどを口に、はなにあてて、できるだけひくいしせいで ひなんしよう。
- いったん ひなんしたら、いえの中へは もどらない。
- 火がひろがる おそれがあるときは、こうえんなどへ ひなんしよう。



① いえの中のほかの ばしょでは、どんな きげんな ことが おこるでしょうか？

「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

7

#### (次年度以降の展開例)

- ・ 自宅での安全対策について、家族へのインタビューをもとに発表させる。
  - ・ 防災啓発車による地震体験や住宅耐震化実験などの体験型防災学習の際に、学習内容を復習する。
- などが考えられる。

## (2) いえの中で大地震がおこったら

いえにいるときに地震がおこったら、どうしたらよいでしょうか？  
下のえをみてかんがえたことをかいてみましょう。

ごはんをつくっているとき



食卓の下に隠れる。揺れがおさまってから火を消す。

べんきょうしているとき



本や手で頭を守る。机の下に隠れる。

お風呂にはいつているとき



風呂の扉を開ける。

ねているとき



ふとんに潜って頭を守る。

### ゆれがおさまって、ひなんするときは…

- 放送があったら、しずかにきこう。
- 津波がきそうなら、いそいでたかいところへひなんしよう。
- ひなんするときは、われたガラスに気をつけよう。
- あんぜんなところへひなんしたら、もどらない。



### 【なますはかせからのしつもん】

ゆれがおさまったら、あなたのいえではどこににげることになっていますか。



〇〇小学校

関連学習：ワークシート①

「じぶんのみのまもりかたをしよう」

(指導上のポイント)

◆地震がおさまった後で、安全な所へ避難する場合があることを、下記の具体例を挙げて説明する。

例) 津波が来る。家が壊れる。火事が広がる。余震が続く。電気・ガス・水道等のライフラインが使えない。など

◆各地域の避難場所を各市町防災担当部署などで確認しておく。地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なる場合があるので注意する。

※参照：県防災対策部 HP「避難所・防災マップ」

[http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X\\_MIE\\_ne000](http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000)

### 【発展問題】

大きな災害にあうとつらい気持ちや悲しい気持ちになりますがどうしたらいいですか。

(回答例) 大きな深呼吸をする。リラックスする。身近な人に話をする。など

(指導上のポイント)

◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、身を寄せることを指導する。

◆左記以外の各自の家のなかでの危険回避方法についても考えさせる。

(指導上のポイント)

◆「津波が来そうなら、高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

◆身の安全を確認できた場合は、できるだけ早く学校へ連絡するか、学校からの安全確認の連絡を待つよう指導する。

(確認)

普段、何気なく過ごしている家の中にもさまざまな危険があることに気づき、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ、避難できることを理解できたか。